

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600204		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラストひばりヶ丘		
所在地	兵庫県神戸市長田区雲雀ヶ丘1-2-5		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和3年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が出来る限り自己決定を出来、なるべく自由に生活できるように心掛けています。コロナ渦で、外出やデイケアが中止となっている為、その代わりに事業所内で出来るレクレーションを職員が少しずつ増やしていつてくれています。
職員が働きやすい環境作りを実現する為の環境整備も随時行っている。
企業としては、ICTの活用に力を入れており、職員がより働きやすい環境や、iPadでのテレビ電話を推奨し、ご家族へも安心していただけるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・新人職員に向けた研修体制が整備されている。・往診医を選ぶ場合に病状や状況に考量できるように選択肢を設けている。
【工夫点】・食事提供では、利用者の嗜好や食べやすさを考えて調理の仕方等を工夫し柔軟に変更している点。・管理者の現場経験を活かし利用支援を深く検討し職員教育に活かしている点。・入居時は必ず自宅を訪問して以前の暮らし等を確認し、利用者らしさの情報を得、その情報は入居後の課題分析時や利用者支援に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「ご利用者主体のケアを目指します。」「認知症介護のプロとして、ご利用者に接します。」「ご利用者と一緒に働く職員へ敬意を持って言動します。」を掲げている。今年度は職員の入れ替わりも激しかったが、少しずつ浸透はしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、職員に回覧して理念の共有して実践に繋げている。	2階事務所前の掲示スペースに事業所理念を掲げる等職員に理念に基づくサービス支援への更なる共有による推進が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度は運営推進会議や地域ケア会議等に参加が多く出来ていたが、今年度はコロナウイルスの影響で、地域との繋がりが極端に減った。	会社として事業所地元自治会参加奨励しており入会している。今年度はコロナ禍で自治会行事も中止が多く日常的な交流は激減している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナウイルスの影響があり、認知症の人の理解・支援の方法などを、地域の人々に向けて生かす場が減っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの影響があり、書面・電話での説明・報告・話し合いを行っている。	民生委員、包括支援センター担当、同業他社管理者、家族代表数名のメンバーによる開催だが今年度はコロナ禍で書面や電話の説明・報告話し合いの中での意見をサービス向上に活かしている。	事故報告、ヒヤリハット報告をしているが、ヒヤリハット数増加、事故数減少への工夫によりさらなる安全性向上推進のため職員の意識高揚への工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課のケアワーカーとは、定期的に電話にて連絡を取っている。	生活保護利用者4名が在籍しており、これらの利用者に関する報告・相談等市保護課ケアワーカーと定期的に電話連絡をとり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束行っておらず、フロア会議時などに確認・どういったことが身体拘束に当てはまるのかなどを伝えている。	年2回身体拘束防止の研修を実施し、フロア会議等で有無確認し、またどのようなことが身体拘束に当てはまるか該当事例等を挙げ伝えている。玄関施錠は夜10時～翌朝6時以外はフリーとしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の各階フロア会議時に確認をしている。また、職員の言動等にも注意し、その都度指導を行っている。	年2回身体拘束防止研修と同時に虐待防止研修を実施し、毎月各階フロア会議時に虐待が見過ごされないよう言葉がきつくなっていないか等挙げて職員と共に確認しあい防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解をしている職員は少ない。	現在成年後見制度活用者が3名在籍しいずれも司法書士が定期的に訪問面談している。	司法書士来訪時に職員への理解を高める背景で、同制度骨子等の説明をして戴く機会の工夫実践が望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については、管理者が利用者やご家族へ説明を行い、理解した上での入退居となっている。	契約の締結・解約等では家族等関心事を伺い説明をしているが最近では料金に関する問い合わせが多い中、家族の望まれる内容を聞くようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の介護計画更新時にご家族へ意見をお聞きしている。コロナウイルスの影響もあり、近況報告・来訪時などにもコミュニケーションを図っている。	各利用者の介護計画更新時に家族に意見を聴きそれらを運営に反映させている。コロナ禍では近況報告時や来訪時等でコミュニケーションを取っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員不足・職員の入れ替わりが多かったこともあり、定期的な面談は行えず。その都度、職員の意見を聞き改善していけるようにしている。	会社自体が月1回5～10名の個人面接を奨励しており、今年度は職員の入れ替わりが多かった背景から不定期かつ都度の職員意見や提案を聞く機会としている現状で推移している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無駄な残業やサービス残業を無くすようにしている。また、働きやすい環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内のウェブラーニングを推進している。また、外部研修も検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者以外は少ない。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の意見を傾聴・尊重し、過ごしやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見を傾聴・尊重し、関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月の各階フロア会議での話し合いや、都度多職種(主治医・薬剤師・訪問看護師・訪問リハビリ)の意見も伺うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の事業所内での役割や信頼関係を築くように日々接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのコミュニケーションを図り、事業所に任せきりではなく、ご家族からの支援・協力をしていただけるような関係を築いていっている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り利用者の馴染みの場所や関係を継続していただけるように支援しているが、コロナウイルスの影響もあり、徐々に減っているのが現状である。	コロナ感染防止のため今年度は外出行事は控えている。そのような中でも少人数での馴染みの場へドライブに出かけている。天候の良い日は裏庭に出て外気浴。ICT活用を試み家族への報告等iPad使用を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いせず、利用者同士の関わり合いが出来るように支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されて間もない間は関係はあるが、時間がたつと関係性は薄くなっているのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを図り、本人の希望・意向などを尊重している。困難な場合は、ご本人・ご家族が何を望まれているかを、職員同士で考慮して実践している。	本人にとってどのように暮らすことが最良なのか、日々の関わりの中で把握している。困難な場合は入居時に得た以前の暮らしや本人情報をもとに「本人はどうか」の視点で職員間で話し合い、家族に聞きながら検討している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者やご家族様にわかる範囲での情報をいただき、実際に入居前に住まわれていた場所まで行かせていただき、入居後の居室環境に活かしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化をケース記録に記入・申し送りなどでも職員間で情報の共有を行っている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや介護計画作成に関しては、利用者や同フロアの職員に必ず意見をお聞きしたり、介護計画の説明をしている。ご家族が遠方の方は電話での報告や意見をお聞きしている。	3ヶ月に1回モニタリングを実施し、フロア会議では職員と共に「実施してどうだったか」を話しあっている。口腔状態や嚥下に関する事、訪問リハビリの身体機能評価等を参考に計画作成及び変更につなげている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化をケース記録に記入・申し送り等でも職員間で情報共有しており、介護計画の見直しにも活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者に合わせて、出来る限り柔軟に対応している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦ということもあったが、以前から地域資源の活用・関りは少なかった。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族へ相談し、かかりつけ医(往診医)を決めている。	本人の状況に応じ入居時に3か所の往診医から選ぶ仕組みができ活用し、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。内科、精神科や整形外科に関する相談もでき24時間相談体制が整備され適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護契約をしている訪問看護ステーションの看護師と適宜情報の共有や相談を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院を早期に進められるように、入院先の病院とやり取りをし、ご家族との話も適宜行っている。	往診医に連携し、入院する際は少しでも本人の負担を軽減できるよう家族と相談しながら本人情報の提供を行い、退院後本人にとって入院によるダメージを極力減すよう医師と話し合う機会を設けている。また事業所で対応可能な段階で退院できるようアプローチしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針や終末期についての方針を利用者やご家族と話している。また、介護計画更新の際も適宜話を伺っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携し安心して納得した最期を迎えられるように話し合いを繰り返し積み重ねすすめている。早い段階から本人の意思確認をおこなうように努め、重度化や終末期を支えていけるかを事業所として随時見極めた上で計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修や都度対応方法を伝えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、避難経路の確認なども行っている。 建物の位置的に、消防署の職員からは、施設から高齢者を連れて逃げるよりも、消防に通報し、施設内や施設周辺で一番安全な場所に待機しておくことが望ましいと言われている。	夜間・日中想定火災時の避難訓練を消防署立会指導を受け施設立地環境より、高齢者連れて逃げるより裏の小学校との間の2m幅スペースに避難を勧められている。備蓄は2日分用意しているが備蓄リスト無し。	災害対策として備蓄リストの整備運用が望まれる。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持については研修などを行っているが、忙しい時にどうしても言動が悪くなってしまう時が見受けられる。屋礼等でも都度声掛けや言動に注意するように促している。	全職員で定期的な勉強会を行っている。誇りやプライバシーにつながる具体的な事例をもとにどう考えるかを出し合い検討している。利用者に発する言葉の内容等が本人を傷つけていないかその場で確認し注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者が自己決定できるように声掛けを行っているが、忙しい時に利用者がいないがしろになっている時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の希望や要望に応えらるるよう支援はしているが、どうしても行き届かないことも多くある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来るだけ利用者本人に選んでいただき、ご自身で選ぶことが出来ない利用者へは、職員がその人のことを考え、選ばせていただいている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や内容については、出来る限りの配慮をしている。片付け等も、出来る範囲で手伝って下さっている。	夕食は食材から手作りしその方の嗜好に合わせ調理など工夫している。昼食は宅配弁当を活用。利用者個々の力を活かし片づけなど力を発揮していただいている。行事では食を通じ楽しみとなるようなメニューを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは業者に委託している。食事量や水分量は記録へ書き、必要であれば主治医へも報告している。摂取量が少ない利用者へは、都度声掛け等も行い、促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じた介助や、口腔内の確認を職員が行っている。また、訪問歯科や医療機関へも都度報告や相談を行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を促せるように支援している。また、利用者の状況に応じた排泄支援を行っている。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を可能にするために一人ひとりのサインを全職員が把握し、あからさまな誘導ではなくさりげない支援を心掛けている。一定期間は排泄困難な要因を丁寧にチェックしパターンを把握し個別的な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為に、飲み物の工夫や朝食のヨーグルトにオリゴ糖を混ぜるなど、薬以外の方法も試している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせて、入浴やシャワー浴の支援をしている。	利用者のその日の状況に合わせて週2～3回入浴していただく。入居時に重度化に伴う入浴支援としてシャワー浴対応での同意を得ている。不安感への対応として利用者の心情を配慮し同性介助に変更したり、2名体制で介助可能な時は湯船に入っていたりなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、日中でも居室へ案内したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべてとは言えないが、ある程度の薬の内容等は把握できていると思われる。薬剤師とも連絡を図りやすい環境が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が出来ることを日々の役割として担っていただいたり、声掛けを行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもあり、中々外出が出来なかった。	コロナ禍のなか外出行事が行えない。短時間でも戸外に出る機会が持てるチャンスとして裏庭へ職員と1対1で出たり、外食はできないので車中でのみのドライブで暮らしていた場や地域をまわるなど本人に合わせた外出支援を行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭管理を行っている。必要であれば金庫内から出金している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ渦でご家族へ会えない日々が続いているが、その分電話で話す機会は増えている。(事業所としては、iPadと使用したテレビ電話もご家族へ推奨しているが、ご家族が対応出来ないケースも多い。)		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の空間は、利用者やご家族・職員が、出来る限り心地よく過ごせるようにレイアウトを考え、整備等も随時行っている。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激が無いよう配慮し、職員や利用者と共に作成の季節感を得る作品や過去の季節イベント参加利用者の写真掲載等居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に利用者は共有のリビングで過ごされることが多いが、利用者の性格的に席を分けたりをしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や思い出の品を持って来ていただき、以前に住まっていた環境に出来る限り近づけるようにしている。	居室は使い慣れた家具や仏壇等好みのものを活かし本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線などを考え、適宜配置換えをしている。		